

■CASBEE-建築(新築)2016年版マニュアル CASBEE-建築(新築)2014年版からの変更点一覧  
 ※変更が無い項目や、軽微な変更については掲載していません。

章、項目名	変更内容
<b>PART I CASBEE-建築(新築)の概要</b>	
<b>1. CASBEE-建築(新築)の枠組み</b>	
1.1 CASBEEとは	図 I.1.1CASBEEファミリー図の変更
<b>2. 評価方法</b>	
2.5 CASBEE-建築(新築)の評価項目	p.15のLR1の解説部分を変更
<b>3. 評価手順</b>	
3.3 採点シート	p.24 3)LR1エネルギーの採点方法について、説明文を修正 図 I.3.5を2016年版に変更
3.5 排出係数シート	図 I.3.7の修正 電力事業者の排出係数を最新値に変更
3.7 スコアシートへの入力	図 I.3.12~14 スコアシートの図を2016年版に変更
3.8 評価結果表示シート	図 I.3.15を2016年版に変更
<b>PART II 採点基準</b>	
<b>1. Q 建築物の環境品質</b>	
<b>Q1 室内環境</b>	<会の評価について>の解説について、スタジアム等の屋外型施設の基準である、会(屋外型)が追加された旨を追記
1.1 室内騒音レベル	項目名を変更(騒音→室内騒音レベル) 適用条件に、会(屋外型)の記述を追加
2.1.2 外皮性能	住宅の基準を変更(レベル4、5) 解説文の修正 参考4)の表を修正、表下の解説文を追加
3.3 照度	事・会(図)・病(診療)・工 の評価基準のレベル5を修正 解説文の一部修正
4.1.1 化学汚染物質	適用条件に会の説明を追加
4.1.2 換気量	適用条件に会の説明を追加
4.2.3 取り入れ外気への配慮	適用条件に会の説明を追加
4.3.1 CO2の監視	適用条件に会の説明を追加
<b>Q2 サービス性能</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振	項目名の変更(耐震・免震→耐震・免震・制震・制振)
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)	項目名の変更(耐震性→耐震性(建物のこわれにくさ))
2.1.2 免震・制震・制振性能(内部設備保護)	項目名の変更(免震・制振性能→免震・制震・制振性能(内部設備保護)) 解説文の修正
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>	
1 生物環境の保全と創出	I. の解説文の修正、表「緑のマスタープラン」の追加 評価する取組みに IV-1)を追加、IVの解説文の修正
<b>LR1 エネルギー</b>	LR1の冒頭の文章に、評価の概要や2014年版からの変更点、計算支援プログラムに関する記述、工場の評価の場合の注意点等を追加
1 建物外皮の熱負荷抑制	工場が対象用途に追加 評価基準の変更(平成27年7月公布の建築物省エネ法に準拠) 解説文の変更
2 自然エネルギー利用	解説文の一部修正
3 設備システムの高効率化	評価基準の全面変更(平成27年7月公布の建築物省エネ法に準拠) 解説文の変更
4.1 モニタリング	解説文の変更
4.2 運用管理体制	解説文の変更
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	
<b>LR3 敷地外環境</b>	
2.3.1 雨水排水負荷低減	評価基準の変更、解説文の全面変更
3.1.1 騒音	適用条件の修正、評価基準の変更、解説文の一部修正
3.1.2 振動	適用条件の修正、評価基準の変更、解説文の一部修正
3.1.3 悪臭	適用条件の修正、評価基準の変更、解説文の一部修正
<b>参考文献</b>	一部修正

補助資料	
PARTⅢ 解説	
1.2.2 個別目的へのCASBEEの活用 1.6.2 民間での活用 1.7.1 評価認証制度 1.7.2 評価員登録制度 2.3.3 「運用」のCO2排出量の算定方法  2.3.5 オフサイト手法を適用した場合のCO2排出量の算定の考え方 2.3.6 LCCO2評価の手順(個別計算)	最新情報に修正 (5)国際的ツールとしての活用 最新情報に修正 最新情報に修正 最新情報に修正 解説文の一部修正 表Ⅲ.2.6の修正、表Ⅲ.2.10の修正  解説文の一部修正 表Ⅲ.2.11を最新情報に修正  図Ⅲ.2.6の2016年版に修正